犀川・桜橋コース

黒褐色の坂道に漂う「まちの歴史と碑（いしぶみ）にみる人の詩情」

野町・寺町の歴史ある寺院、芭蕉や犀星の詩情あふれる碑の数々。犀川沿いや寺町台地のみちすじを巡り、坂道の桜、寺院群の紅葉、残雪の医王山など、懐かしい自然情景に出会ってみませんか。

犀川大橋 ➡ 蛤坂 ➡ 本長寺 ➡ 金剛寺 ➡ 六斗の広見 ➡
興徳寺 ➡ 寺町鐘声園 ➡ 長久寺 ➡ 新桜坂緑地 ➡ W坂 ➡
桜橋 ➡ 犀星文学碑・犀星のみち

●犀川大橋

美しき川は流れたり・・・大橋で佇んでいると新鮮な川風が頬を伝っていきます。幾たび訪れても心地よい景観。清流にウグイやアブラハヤが泳ぎ、中洲の葉陰にコサギやオオヨシキリが羽ばたきます。かつて、文豪室生犀星もこの情景をこよなく愛したことでしょう。

●旧街道沿いを歩く

旧鶴来往還の起点・蛤坂は、大橋詰左から寺町台へ向かう緩やかな道です。しばらく進むと、木造三階建の建物がみえてきます。市の保存建造物に指定されている山錦楼です。妙慶寺、成学寺など、この界隈からあちらこちらにお寺が建ち並び、寺院群らしいまちなみが続きます。

●本長寺の紅葉

妙立寺を抜けると本長寺の大樹林がみえます。特にモミジは、四季折々に緑、橙、赤と色を変えますが、やはり11月頃の紅葉は格別なものがあり、願念寺の芭蕉句碑「塚も動け我が泣く声は秋の風」が、素晴らしさにいっそうの彩りを添えます。境内にはアオゲラやトラツグミ、オオルリなど野鳥たちがやってきて、心地よい音色を奏でてくれます。

●六斗の広見から寺町かいわいへ

通りのつきあたりは、今までにない広い空間となっています。六斗の広見です。近くには市内最大級のゴヨウマツ（泉野菅原神社敷地内）や国泰寺には風格あるイチョウの古木、金剛寺にはタブ、スギなどの樹林のほか、まちなかでは少なくなった竹林があります。鬱蒼（うっそう）とした深緑に寺町の往時が偲ばれます。

トガの大木がある興徳寺を過ぎ、大通りに出て右に進みます。春には、国指

定天然記念物のサクラがある松月寺まで足を伸ばしてみてもよいでしょう。

●残したい日本の音風景

国の「残したい日本の音風景100選」で、金沢市から「本多の森の蝉時雨」「寺町寺院群の鐘」の２つが認定されています。その認定を記念して整備されたのが寺町鐘声園。山門、土塀があり、寺町界隈の寺院庭園を参考にした回遊式の枯山水庭園となっています。５月中頃からは、園内のツツジが見頃をむかえます。

●長久寺のギンモクセイ

寺町通りを渡り長久寺へ。山門をくぐると樹齢400年のギンモクセイが本堂正面に対で座し、秋には白い花が芳しい香りを漂わせます。芭蕉が詠んだ「秋涼し手毎にむけや瓜茄子」の句碑も櫓塀に映えます。

●新桜坂緑地とW坂

長久寺のケヤキや本因寺のスギ木立ちを横にみながら進むと、新桜坂緑地、そしてW坂（石切坂）。緑地からは犀川大橋を中心とした市街地が広く見渡せ、W坂を下りながら崖地に生えるサクラと石垣の狭間から見渡すと、犀川や対岸のまちなみが立体的に俯瞰できます。井上靖の文学碑を通り過ぎると、W坂下の桜坂には、本多の森も一望できる階段道もあります。

●桜橋と犀星のみち

桜橋から望む山河は素晴らしく、医王山・大門・高三郎の山々が遠く浮かび、足元の見晴台に迫る清流と涼風に目も醒めるようです。橋を渡ると、河岸の小公園には高浜虚子や室生犀星の碑が並びます。犀星のみちを大橋の方へ進むと、堰の轟音、そよ風に揺らぐサクラやヤナギの老木から、犀川の悠久の歴史と、かけがえのない自然の深みが伝わってきます。